

小学校 第5学年 社会科 学習指導案

北海道江別市立中央小学校
教諭 高橋 公平

単元名 水産業のさかんな地域（8時間）

単元の
ねらい

- 我が国の水産業が、自然条件を生かして営まれていることや、その生産に関わる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 水産業に関わる人々の働きを多角的に考える力、水産業に関わる課題を把握して、これからの水産業の発展について考える力、考えたことを説明する力を養う。
- 我が国の水産業について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

本時の
ねらい

持続可能な水産業を目指す取り組みに着目して、安定した水産業を続けるために、世界の国々が水産資源の管理に取り組んでいること、国内でも様々な取り組みが行われていることを捉える。（第7時）

指導時期 7月上旬～下旬

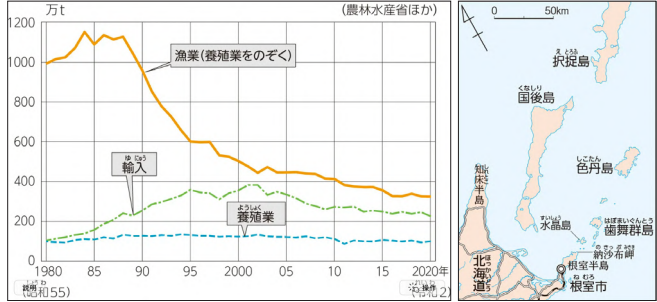
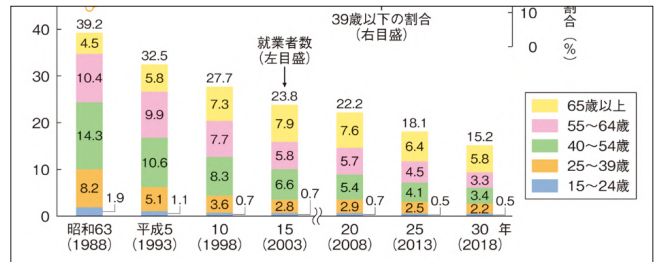
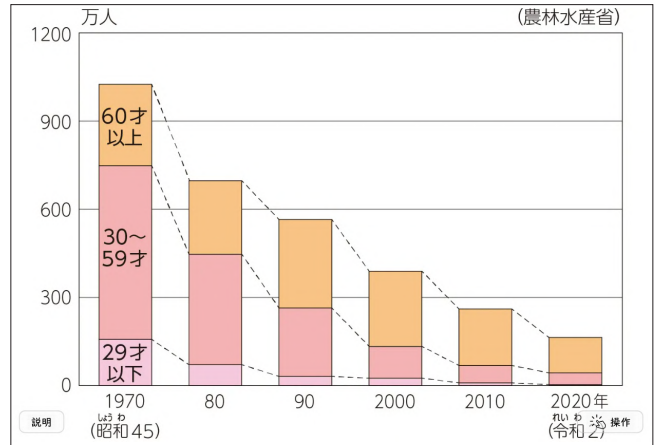
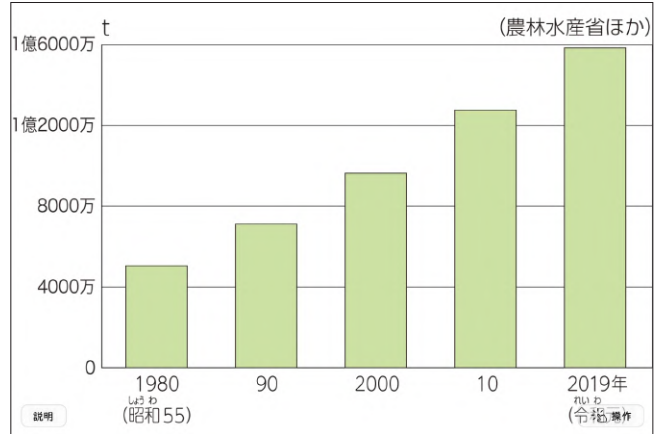
指導者用デジタル教科書（教材）活用の意図・目的

水産庁のHPに記載されている漁業就業者数の推移と、p.83の農業で働く人の数の変化のグラフを関連させて提示し、既習である農業との共通点を見いだすことで、日本の一次産業の課題として、本時の学習内容に迫らせたいと考えた。そのために、短時間で視覚的に資料を提示できる「指導者用デジタル教科書（教材）」は効果的だと考えた。

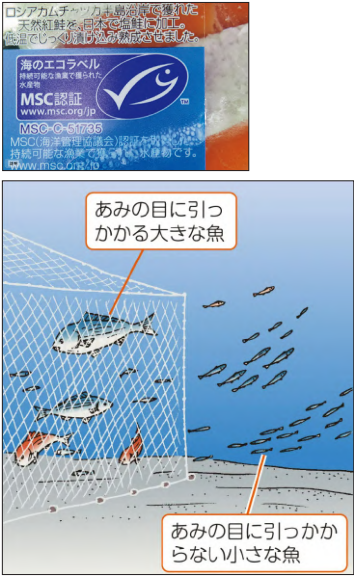
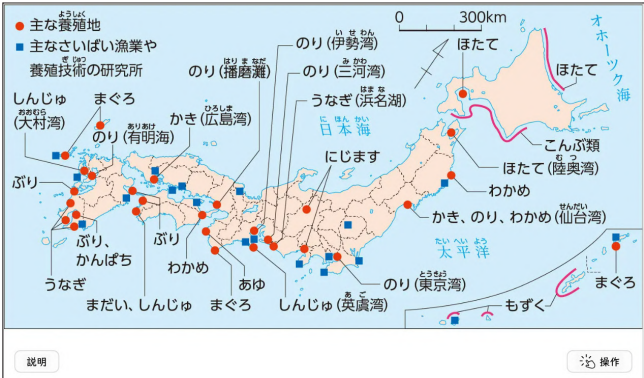
また、「思考ツール」や「NHK for School リンク集」が準備されており、教科書の記載内容に即した活用のイメージがしやすく、授業準備も簡単である。

本時（第7時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	● 「指導者用デジタル教科書（教材）」の初期画面を用いてコンテンツを起動する。	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	● 前時に学習した、日本の漁業生産量のグラフ (p.98「資料エ」) や根室市と北方領土の位置を示した地図 (p.99「資料カ」) を提示し、水産業の課題を確認する。 T：この資料から、水産業のどんな課題がわかりますか C：外国との関係で漁ができない、とれる魚の量が減っているという課題。	● 「資料エ」「資料カ」を拡大表示する。 
	● 漁業従事者の推移のグラフ (水産庁HP) を提示し、変化を読み取る。 T：このグラフからも日本の水産業の課題が読み取れます。どんな課題でしょうか。 C：日本の漁業で働く人はどんどん減っている、という課題。	● HPのグラフにアクセスし、拡大表示する。  水産庁HP〈漁業就業構造等の変化〉 https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/r01_h/trend/1/t1_f2_3.html 
	● p.83の農業で働く人の数の変化のグラフ (資料工) を提示し、既習事項を振り返る。 T：以前学習した、農業で働く人の数の変化のグラフです。何か気づいたことはありますか。 C：農業も水産業と同じで、働く人が減っている。	● 「資料工」を拡大表示する。 
	● p.100の世界の水産物の消費量の変化 (資料ア) のグラフを提示し、変化を読み取る。 T：「資料ア」のグラフを見てみましょう。何がわかりますか。 C：世界では消費量が増えている。	● 「資料ア」を拡大表示する。 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	●これまでの資料から見てきた水産業の課題を話し合い、整理する。 T：これまで読み取ってきた資料から、疑問に思ったことを話し合いましょう。 C：日本では漁獲量が減り、漁業で働く人が減っているのに、世界では消費量が増えているのは、どうして？ C：漁業で働く人がいなくなると、魚をとったり育てたりする人がいなくなるんじゃないかな。 C：このままでは魚がいなくなってしまう。魚がこれからも、とれるようにしていくには、どうしたらいいのかな。 ●課題提示をする。	水産物の安定した生産を続けるために、日本と世界の国々ではどのようなことに取り組んでいるのだろう。
展開	●p.100のキーワードの左上にある「思考ツール（フィッシュボーン）」で、安定した生産を続けるための取り組みをまとめ、安定した水産業を続けるために大切なことを考え、話し合う。 ●教科書に提示されている資料を読み取り、何がわかるのか、なぜそのようなことがなされているのかを話し合い、確認する。 T：「資料ウ」や、右の「NHK for School リンク集」にある動画から、200海里水域について何がわかりますか。 C：魚をとりすぎないように制限している。	●「思考ツール」を投影し、児童の意見を記入しながら整理し、これを見ながら話し合う。 ●「資料ウ」を拡大表示し、「NHK for School リンク集」にある動画を再生する。 200海里水域 (かいりすいせいげん) と… 1977年頃、それぞれの国の岸から200海里、およそ370kmの中に、外国の船は勝手に入って漁をしてはいけないという国際（こくさい）的なルールが決められました。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	T：「資料エ」の国際団体が認めた表示や、「資料オ」のあみの目の大きさの工夫は、なんのための取り組みなのでしょう。 C：海の環境を守りながらとられた魚だとわかったら、安心して買える。 C：小さい魚をとると、そのあとに魚がいなくなってしまう。	●「資料エ」「資料オ」を拡大表示する。  T：「資料カ」の養殖地や研究所の地図、「資料キ」の稚魚の放流の様子などから、何がわかりますか。 C：少し大きくなってから海に放流したら、大きく育ちやすい。 C：養殖は安定した生産ができる。 C：たくさん場所で養殖が行われている。
	●整理したことをもとに、安定した水産業を続けていくために大切なことを考え、話し合う。 T：これまで読み取ってきた取り組みについて、どんなことが大切だと思ったか発表してください。 C：海の環境を守ることが大切。(持続可能な水産業という視点) C：魚をとりすぎてもダメだけど、全くとらないのも、漁業で働く人が暮らしていけない。(水産業者の視点) C：産業のことを考えた商品を買うことで、水産資源を守る。(水産業者・消費者の視点) C：日本だけではなく、世界の国々のみんなを考えていくことが大切。(世界の国々との視点)	●「資料カ」「資料キ」を拡大表示する。  

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
まとめ	● 学習のまとめをする。	
	● 次時の予告をする。 次は、水産業に関わる人たちの工夫や努力をまとめ、これからも水産業が続いていくためにはどうしたらよいかを考えます。	

指導者用デジタル教科書（教材）を活用したことで得られた効果

「指導者用デジタル教科書（教材）」活用の最大のメリットは、子どもたちに注目させたい資料等を視覚的に短時間で提示できる点である。学習が進み、単元の後半にさしかかるほどに、既習事項が増えていく。そしてさらに学習するページから新しい資料に出合うので、情報過多になってしまうことがある。児童が本時の課題について多角的に探究していくために、教師が児童の調べ学習の状況を机間巡視で把握し、意図的に資料を電子黒板で拡大して提示することで、「考えさせたいことに集中させる」ことができる。

また、グラフなどの資料のデータや「思考ツール」を、プレゼンテーションツールなどに貼りつけることで、資料の読み取りや考えの交流の際に、協働的な学びを促すという活用もできる。タブレット上だけでなく、「思考ツール」をプリントアウトして児童のノートに貼らせることもできる。教師の意図や授業構成に合わせた活用ができることも、「指導者用デジタル教科書（教材）」のメリットであろう。